

全高長 第 69 号
平成23年1月18日

独立行政法人 大学入試センター
理事長 吉本高志様

全国高等学校長協会
会長 青山 彰
(公印省略)

「平成21年度告示高等学校学習指導要領に対応した大学入試センター試験
の数学、理科の出題科目等について(案)」に対する意見

今般、独立行政法人大学入試センターにより示された「平成21年度告示高等学校学習指導要領に対応した大学入試センター試験の数学、理科の出題科目等について(案)」に対して、全国高等学校長協会として下記のとおり意見を申し述べます。

記

大学入試センター・ホームページの「センター試験の概要」には、大学入試センター試験は「大学に入学を志願する者の高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的とするもの」、そして「大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的に判定することに資するために実施するもの」とあります。

これまで、大学入試センター試験の出題科目・内容については、当該の試験が1月中旬に実施されることから、出題に当たって、高等学校の学習環境に配慮し、原則、高等学校2年生までの学習範囲で、必修科目を重視していただき、それを超える範囲については、各大学が個別学力試験で測る形態になっています。

このことを踏まえ、今回の学習指導要領改訂に伴う大学入試センター試験科目についても、全国高等学校長協会は、その趣旨に沿った出題にしていいただきたいと要望してきました。

1 数学について

「数学 Ⅰ」「数学 Ⅱ・数学A」から1科目選択、「数学 Ⅲ」「数学 Ⅳ・数学B」から1科目選択をさせることは、現行と同じであり、全国高等学校長協会として問題ないと考えます。

2 理科について

全国高等学校長協会では、当初、理科においては、2単位科目である基礎を付した科目を、文系の生徒は1科目、理系の生徒は2科目選択する形が望ましいと考えていました。しかし、2単位科目のみで大学入試センター試験とするならば、単位数において他教科とのバランスを欠くことになること、また、基礎を付した科目は現行の大学入試センター試験の「理科」よりも学習範囲が狭く、大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的に判定する趣旨から考えて、基礎を付した科目については文系の生徒についても2科目を選択することはやむをえないと判断しています。その結果、現行で理科2科目を課している理系の生徒に対しては、現行より過重にはなりますが、基礎を付さない4単位科目を課することもやむをえないと考えています。

しかし、週30単位時間のなかで教育課程を編成している高等学校の現状に鑑みて、2年生までに4単位科目を一つでも履修することにより、他の教科に大きなしわ寄せを及ぼす可能性が懸念されます。

そのような状況の中で、さらに4単位科目を2科目課することが可能となるような今回の案は、全国高等学校長協会としては受け入れがたいものです。2年生までに理科4単位科目を2科目履修させることは不可能です。当然ながら3年生でそれらを引き続き履修することになります。1月に行われる大学入試センター試験に学習を間に合わせるとなると、高等学校での学習環境（教育課程、学習計画等）にゆがみが生ずることになりかねません。理科4単位科目については、これまでどおり、大学の個別学力検査で行っていただきたいと考えます。

大学入試センター試験が、「大学に入学を志願する者の高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的とするもの」という趣旨に沿って実施されるよう、改めて強く要望し、全国高等学校長協会として意見を申し述べます。